

# モモの高糖度果実生産について

県内のモモ産地の一部では、近年、光センサー選果機による糖度重視の選別出荷に取り組んでおり、農家所得の向上のためには、高糖度果実の安定生産が不可欠となっている。そこで、糖度に影響する要因について、土壌及び樹体生育等の面から比較調査し、あわせて改善策について検討した。

調査は、JA愛媛中央管内の産地において行った。2000年度の光センサー選果機による園地ごとの選果成績をもとに‘あかつき’の高糖度園（平均13.8）、低糖度園（平均10.8）を9園地ずつ選定し、土壌の物理性、化学性、樹体生育、受光条件、果実品質について2001年から3年間調査を行った。

その結果、糖度の低い園地は、排水不良園（飽和透水係数が低い）（図1）や収穫期（7月上旬）の土壌全チッソ含有量及び腐植含有量（データ省略）が多い園地で多く見られた。特に全チッソ含有量が0.1%以上の園地は低糖度園が多い傾向であった（図2）。また、新梢の伸長が旺盛で副梢の発生の多い園地、即ち過剰な枝葉の繁茂により樹冠内の相対照度が低い園地では糖度が低い傾向にあった（図3）。

これらの改善策の一つとして、夏季における新梢の摘心や草生栽培（パフィアグラス）による人為的な養水分の競合が、糖度に及ぼす影響について検討した。その結果、草生栽培は、モモ樹に穏やかに水分ストレスを与えることにより、また、6-7月の新梢の摘心は、樹勢のコントロールや樹冠内部の光環境の改善により、高糖度果実の割合を増加させる効果が認められた（図4、5）。以上のことから、モモの品質向上を図るためには、排水対策や枝梢管理の徹底、草生栽培によるモモ樹のチッソ過剰吸収の防止などに努める必要がある。

（栽培育種室 主任研究員 清水康雄）

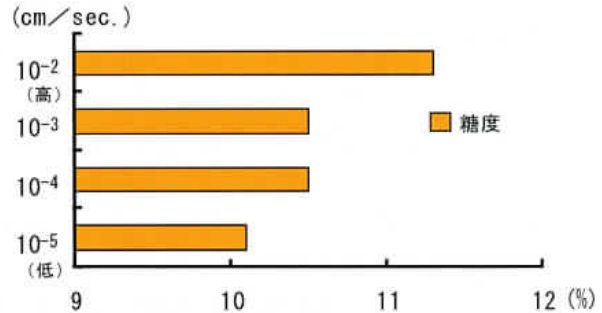


図1 土壌の透水係数とBrix (2001年)

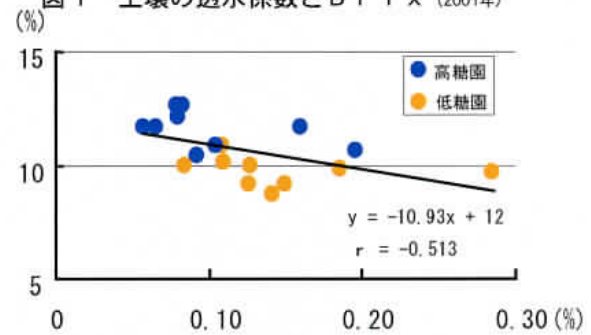


図2 収穫期の土壌の全チッソ含有量と糖度 (2001~2003年)

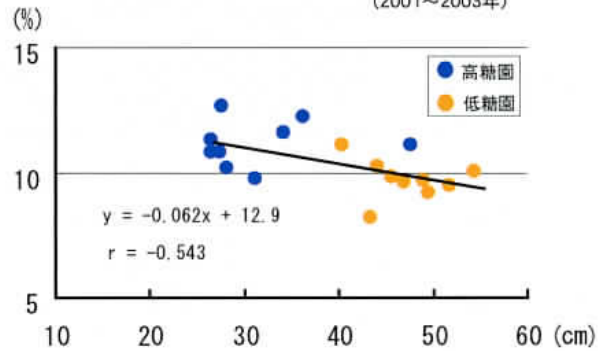


図3 新梢の生長と糖度 (2001~2003年)

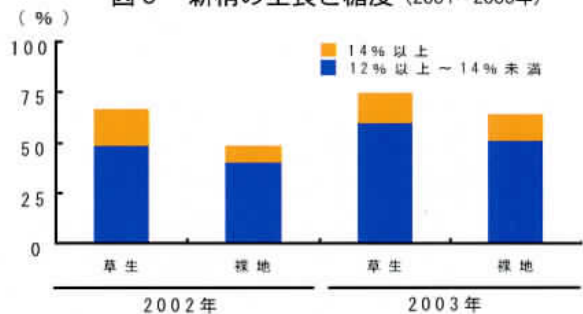


図4 草生栽培と各糖度の果実割合 (あかつき)

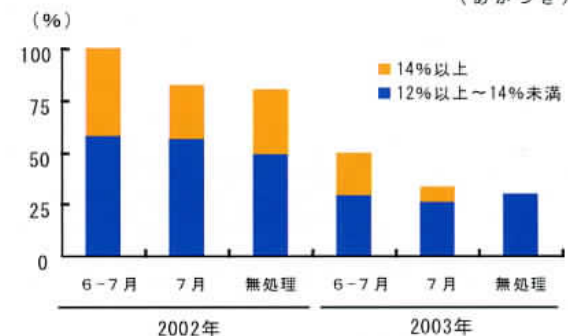


図5 摘心処理と各糖度の果実割合 (川中島白桃)